

庄内協同ファームだより

No.142 2012年12月号



発行/

〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338

tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140

http://www.shonaifarm.com



生協祭りでの餅つき

「月 無心にして水に移り、水 無念にして月を写す、内に邪を生ぜざれば 事よく外に正し」
江戸時代の剣豪、伊東一刀斎が残した言葉です。様々な事に当てはまる言葉ですよ。何かあるとフツと思ひ出します。

さて、百姓としての自分はもうなっているのか？

この月を自分に、水を稲に置き換えてみると、

「俺 無心にして稲を育て、稲 無念にして俺を育てる」
イーですねー。お互いがお互いを育てる関係、まるで写し鏡のようです。でも、実際にそうになっているかなと考えれば、そうっていないことは明らかです。収量も欲しいし、身体も厳しいし、なかなか無心にはなれません。まだまだ自分ばかりが大事で稲の本当の姿

がよく見えていない気がします。

でもね、稲が無欲のまま俺を引き受けているのはわかります。ですから、現況は

「俺 ちょっと欲出して稲を育て、稲 無念にして 俺を映し出す、内にちよびつと邪があるの」

「ちよこちよこ失敗する」です。

今年の稲刈りは草が多くて大変でした。でも、ちゃんと稔ってくれた稲には感謝したいと思います。



そして、百姓としても人間としてもまだまだ自分が今期から庄内協同ファームの理事を任せられる事になりました。はつきり言って心配です。知識も経験も豊富な先輩たちが、自分たちではなく何も知らない若い世代を理事に選んだのですから、これからの世代を育てようと私心を捨てリスク覚悟で選ばれたのだと思います。心配ですが、ぐだぐだ言わずにやるしかない。無心で三年間の任期、精一杯やらせていただきます。

理事 富樫 俊悦

TPP参加阻止のための具体的な行動を

志藤 正一



菅野芳秀 氏

10月18日、長井市の「菅野芳秀」氏を迎えTPPについての学習会を開催した。

菅野氏は現在、山下惣一氏らとともに『TPPに反対する人々の運動』を立ち上げ、その共同代表として活動している。日本のTPP参加を阻止するために農民だけではなく漁民や労働者、自営業者、中小零細事業者、高齢者、女性、子供たちといった社会的経済的弱者の立場にある人々の生存の基盤そのものを崩すものとして社会階層、職種などすべての枠を超え、ともに運動を進めようとしている。

私たちはこれまで生協での学習会や“農を変えたい東北集会”などで約3年間「TPP」の問題点について学習してきた経緯があり、TPPがこれまでの通商上の貿易協定とは違いアメリカを取り巻く中小経済国にアメリカのルール（特に大企業の活動をし易くするルール）を押し付けるものであることを知ることができた。

そして最近の漏れてくる事前交渉の内容からする

とそのことで利益を得られる業種や額は経済団体が発表している額よりは少なく、不利益を受ける国民は多方面にわたり、額も多いのではないかとされている。もしTPPに参加すれば悪影響を受けるのは社会全般にわたり、菅野氏が言うように特に弱い立場にある人たちにより多くのしわ寄せが来るであろうことはだいたい国民の間で理解されるようになってきたと思う。

にもかかわらず、経済界やその声に後押しされた政界からのTPP参加への根強い動きはとどまることが無い。ここはよほど肝を据えて私たちも反対の烽火を上げる必要があるようだ。



エコエリアやまがた推進コンクール最優秀賞受賞



受賞した
志藤正一さん

当農事組合法人の代表理事を努め、その間有機栽培面積が10%から40%に拡大しました。

志藤さんは、田んぼの生き物調査、冬期湛水、不耕起移植栽培、紙マルチ栽培、合鴨農法、自然農業等に現在も積極的に取り組んでいます。庄内協同ファームの仲間として受賞を心よりお祝いたします。

エコエリアやまがた推進コンクールの最優秀賞に元代表理事の志藤正一さんが選ばれました。

「1966年の就農時から循環型農業を志し、有機農業・養豚による耕畜のバランスが取れた複合経営を確立。有機農業普及のために尽力しており、県有機農業推進協議会を設立し、同協議会の副会長、鶴岡市有機農業推進協議会会長を務めるとともに、海外を含む多くの研修生の受入等精力的に活動している。」との評価です。

2004年から2009年までの6年間、



今年も、もちの季節が やってきまじた



日本古来からあるもち文化。

お隣の国、中国・韓国にも似たようなものがあり、それぞれ「水磨年糕」（シュイモーニエンガモ）、「トック」と言います。

しかし、お隣の国の方々がお正月といえはお餅と連想するかというところでもなく、お餅を食べてお正月を迎えるという食習慣は日本人特有の文化のようです。

餅を縁起物としてお正月に食べるという風習は、平安時代から盛んになったようです。その記憶は既に日本人のDNAの中に組み込まれているんでしょうね。

私たちのもち原料は品種「でわのもち」を使用して、全て組合員（生産者）が有機栽培、又は化学肥料を使

わず、農薬も可能な限り削減して栽培（減無栽培）したものです。

また製造も私たちの加工場で生産しています。もち米本来の甘みと粘りが特徴で、皆様から毎年喜ばれております。

伝統的なお雑煮はもちろんのこと、もちピザやキムチ鍋の具などの新しい食べ方にも挑戦してみてください。私たちの餅を食べて、古来（いにしえ）から日本人のDNAに宿るお餅への



記憶を呼び起こしてもraithたいです。今年も庄内協同ファームのお餅を宜しく願います。

下の「よみがえりのレシピ」で紹介された在来作物を使用したもので、庄内協同ファームには、「だだちゃまめ」（夏季）と「赤カブ漬け」（冬季）があります。合わせて宜しく願います。

「飽食の時代を生きる処方箋」映画「よみがえりのレシピ」

その土地の気候や土壌に適合しながら、長年地元の人々に大切に栽培されてきた個性的な作物のことを「在来作物」と呼びます。大量生産大量消費のしくみの中で扱いにくいと排除され、山形県内だけでもこの数十年の間に30品目以上が消滅したといえます。消えていく運命にあった「在来作物」にスポットライトを当て、先祖から受け継がれた種を大切に守り続けてきた生産者をみんなで応援しようと立ち上がった人達の「種を守り想いを継ぐ物語」を地元出身の若き映画監督 渡辺智史さんがドキュメンタリー映画という形で伝えています。

映画の中には、庄内協同ファームの組合員であり、在来作物“だだちゃ豆”の生産者富樫俊一さんと小野寺美佐子さんも登

場します。

効率性重視の閉塞感に覆われる日本社会に中で、非効率な在来作物が人々の心を温かくつないでいく様は、3.11以降新しい価値観や生き方を模索する私たちにとっての処方箋（レシピ）となってくれるでしょう。

◎ただ今全国で好評上映中。

詳しくはホームページをご覧ください。
<http://y-recipe.net/>



映画「よみがえりのレシピ」の思い出



富樫俊一

在来作物と種を守る人々の物語「よみがえりのレシピ」が2011年山形国際ドキュメンタリー映画祭2011に出品された。

たまたま私が在来作物研究会の会員であり、白山だだちゃ豆産地の農家であった為か、ある日渡辺監督が家に見えられ、在来作物をメインにした映画を撮りたいので協力してくれないかと頼まれた。その熱く語る彼の人柄に負けて引き受ける事となった。

春の種まきから管理作業、収穫まで何とか順調に撮影し、いよいよ種取りまで来た。収穫してみると種が白い。あれ?なんと8割ぐらいがカビで真っ白。今まで経験したことのないような状況であった。

その年は大雨、その後カンカン照り、おまけに台風と過酷な栽培状況であった。気持ち先行で農薬を使わない栽培をしている者に「天の報い」が降ってきた。種の物語に種がない状況。おかげで監督には大変迷惑をかける事となった。

無農薬栽培をしていると、毎年すんなりと収穫までこぎつける事はまれで、何時も何かが起こる。最近では毎年が異常気象なので栽培技術が追いつかない。白山だだちゃ豆の種は門外不出の為販売されていない。昔から自家採取が当たり前。このような年は先人達からの知恵で、種は多めに採り、使用した残りは保存し、いざという時の為に備える。それでも足りない時は村で融通しあって助け合ってきた。まさに種を守り育ててきたのである。親から子へ、子から孫へこれからも引き継いでいきたいものだ。

「よみがえりのレシピ」は農家、研究者、料理人達が在来作物を今によみがえらせたドラマです。監督が苦勞して作り上げた作品です。おかげさまで好評を博し海外上映も決まったとか。うれしくもほろ苦しい思い出の映画でした。

ペンリレー

徒然草

富樫佳枝



住めば都

私が住んでいるところは羽黒町上川代、庄内

協同ファームの事務所があるところと比べるとかなり山に近く、こんなところに人が住んでいるのかと（実際に言われたことがあります）思われるようなところでは、ここは二晩で車が埋まるほど雪が積もります。当初住んでいた住宅はかやぶき屋根の平屋でした。雪が積もると階段をつけて家に入っていました。その当時は集落の中まで車が入れず約300m先に車を止めそこから家まで歩



自宅付近から見える笹川と月山

いていました。保育園に通っていた娘と一緒に手をつなぎ懐中電灯片手に歩いたことがとても懐かしい思い出です。たぶん若かったからできたことだと思っています。12月から3月まではとても厳しいところですが、春は周りの木々が柔らかい、うす緑から濃い緑に日々変わる様子を見ることが出来ます。また山桜がきれいで、周辺で夫が30分コース1時間コースと名付けていたところがあります。その中でも、とてもいい桜の木があり毎年見

に行きます。（映画「山桜」に出てきた桜のようです）。ここ数年の大雪と温暖化による湿った重い雪のせいか枝や幹が折れ、痛々しいのですが、それでもきれいな花をつけているのを見ると感動します。夏は虫送りという行事をします。昔の行事をふるさと創生資金を使い復活させました。7月初めから源氏螢が飛び、中ごろから平家螢が飛びます。満天の星とのコラボレーションはとても見事です。最近はおコシで見に来る人も増えました。上流に映画村ができ観光客が大勢来るようになったので川の汚染を心配したのですが、今のところ大丈夫のよう

で安心しました。

昨年は流れ星が多く、車が来ないのをいいことに息子と二人道路に寝転がりしばらく眺めていました。星や月がきれいなときに外に出るのはわが家くらしいで、暗い中で写真を撮っていた息子は熊に間違えられたのではないかと思います。8戸総勢で22人しかいない集落で、そのうち限界集落になりそうですが、なんだかんだといいながらも協力しながら生活しています。周りの人からは夫が亡くなり、ここでの生活は大変ではないかと言われますが、車の運転ができる間はここで暮らしたいと思っています。

長年暮らせばどこでも住めば都です。

ちっちゃんペット

今年は春の訪れが遅く、6月末になっても生まれてくる様子もなく、あきらめかけていたが7月10日頃やっと出てきてくれました!!スズムシです。3年位前、酒田市内のスーパーで「鈴虫お分けします」と店頭に出されていたのを数匹もらいました。敷土、エサを準備し世話する日々、観察していると様々な行動に遭遇できます。触角を口元に寄せツィーツと先までなめたり、4回ほどする脱皮の直後は真っ白で幻想的だったり。音色は何とも風情があります。そんな彼らも10月始めには産卵し1年という短い一生を終えました。今年も私たちを癒してくれて、ありがとう。



あ

あとがき



秋も深まり庄内平野も冬の足取りが聞こえて参りました。出羽富士とも呼ばれる鳥海山も雪が積もり、山頂は雪化粧に覆われて、我が家の田んぼにもシベリアから白鳥が越冬しにやってきております。

ちなみに「美しく優雅な白鳥も水面下では必死で足を動かしている」と良く言われますが、実際は油脂線より分泌される油を羽繕いで羽に塗りつけ、撥水性を持たせた羽で浮かんでいるだけなので大して必死ではないそうです。良く考えたら常に足動かしていたら疲れるし、水鳥なんですから当たり前なんですけどね。我が家でも夏に除草で大活躍してくれた合鴨くん達と同じですね。

そんな合鴨くん達が頑張ってお手伝いしてくれたお米も収穫し終わり、大変良く実りました!

現在、続々とお餅となつて出撃の時を今か今かと待ち望んでおります。皆様に美味しく頂いてもらえれば、作っているものとしてこれ以上の喜びは御座いません。是非、賞味あれ〜! (自)